



Title	唐代中央アジア地域の交通制度：駅伝制度導入をめぐる問題を中心として
Author(s)	荒川, 正晴
Citation	唐代史研究会会報. 1992, 5, p. 5-7
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88449
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

唐代中央アジア地域の交通制度 — 駅伝制度導入をめぐる問題を中心として —

荒川 正晴

(1)

唐の支配以前における中央アジアでは、西突厥の統葉護可汗時代に、可汗の勅令による馬驢の供出、つまりulaγの制度を領域内において施行していたことが、玄奘の伝記である『大慈恩寺三蔵法師伝』巻1（麴氏高昌国の条）、巻2（活国の条）の記事の分析から知ることができる。そもそもこのulaγは、トルコ語で駅馬という意味を有することから明らかなように、元来は、トルコ系遊牧諸部族内において、駅馬的役割を果たした馬を意味していたと思われる。当時のイラン系胡人や漢人を主体とするオアシス諸国には、当然ulaγなどと呼ばれる馬の存在は認められないが、かれらが同様に可汗の勅令によるulaγの供出を課せられていたのは、オアシス諸国が可汗より、iltäbäl等の称号を授与され、西突厥配下の諸部族同様の官称号を与えられ、その官制組織に組み入れられていたからであると思われる。つまり、官称号を授与されたことによって、種々の課役負担の義務が生

じ、ulaγはそうした負担のひとつであったと推測される。しかしながら、各オアシス諸国では、ulaγを供出するための、新たな制度が制定された様子はまったくうかがえず、それまでオアシス国家として設置していた交通制度のなかで、ulaγの供出に対応していたと見られる。高昌国には、そうした官用交通のための役畜として、遠行馬、遠行車牛が存在していたことが知られ、他のオアシス諸国でも、それぞれ独自の、しかしながらある程度共通した官用交通の制度が存在していたと想像される。

要するにオアシス諸国を強力にその配下に収めた西突厥の統葉護可汗時代（7世紀初め）には、ulaγの制度をオアシス諸国に課し、公用交通を支える遞送組織を整備したと見て大過なかならうと思われる。ただし、ulaγという言葉は、チベット・モンゴル・満州を含めひろく中央ユーラシア地域に流布しており、あるいは、すでに突厥勃興以前よりulaγは存在していた可能性は高いが、今のところ詳細は明らかではない。

(2)

このように西突厥の支配のもと、ulaγの供出を課された中央アジアのオアシス諸国と遊牧部族は、やがて唐の支配とその交通制度を受け入れるようになる。唐の交通制度である駅伝制度は、周知の如く律令に規定された官営の交通システムであり、基本的に駅馬と伝馬とによって運用されている。唐のこの制度については、これまでに少なからざる研究の蓄積があり、とりわけ最近ではトゥルファン出土文書を利用して、駅館の具体的な運営に関して詳細な検討が進められている。ところが意外にも、運用の根幹となる駅馬と伝馬とが如何なる性格の馬で、両者がどのように連携して駅伝制度としての機能を果たしていたのか明らかではない。私見によれば、唐の設置する駅伝制度とは、中央と地方とを駅道によって結ぶことに主眼を置き、限定された条件下で運用される駅制と、それを背後で支えるべく、県に遞送のための人馬の供出はおよび宿食供給を課し、日常的な公用交通・運輸を担わせた伝馬制とから成り立っていたと考えられる。

(3)

こうした構造をもつ唐の駅伝制度が中央アジアに導入されると、中央との通信・交通ルートを確保するため、駅館を設置する駅路は内地同様に設定されていった。それに対して、駅伝制度の一方の柱である、県を場として機能する伝馬制は、当地域に導入されることはなく、各オアシス地域を結ぶ官用の交通および運輸を担ったのは、長行坊と呼ばれる交通機関であった。これは州のレベルで機能するとともに、在来の交通制度を継承する側面が認められ、県が運用の主体となる伝馬制とは異なる原則に基づくものであった。一方、遊牧部族も、都護府治下に羈縻府・州・部落として唐の支配下に組み込まれたが、こうした羈縻部落も、引き続きulaγ供出の義務が課せられたらしいことが、吐魯番文書よりうかがえる。これらは、唐の駅伝制度の導入が、支配以前に形成されていた在地の交通システムに依存する側面があったことを示唆している。しかしながら、それは単に従来の在地の

交通システムを受け継いだのではなく、それを基盤にして、この時代に設定された駅路上に列置された多くの駅館や軍事施設を結んで機能する新たな交通制度を確立していったのである。この点、唐の支配時期は、当地域にそれまでの時代とは一線を画するような大きな交通上の変革をもたらしたと見ることもでき、今後その実態解明を通じて、中国と中央アジア地域との関係および中央アジア内部の社会について検討を深めてゆきたい。